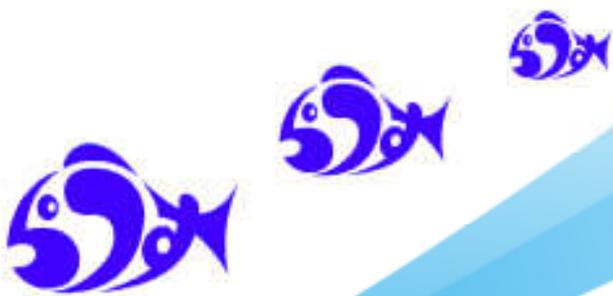


羅白町第7次社会教育中期計画

2016年度～2019年度

(平成28年度～平成31年度)



羅白町教育委員会

羅臼町教育大綱

◆羅臼町民憲章

わたくしたちは、雄大な知床連峰と、
オホーツクの海原の大自然にはぐくまれた、羅臼の町民です。

- 一、自然を愛し、先人の強い意志をうけつぎます。
- 一、健康で、明るく楽しい家庭をつくります。
- 一、教養を高め、豊かな情操を育てます。
- 一、仕事に誇りをもち、はたらく喜びに生きます。
- 一、子どもたちの夢と、若い力を育てます。

◆羅臼町教育目標

ふるさと羅臼の躍進を創造し
いきいきと逞しく行動する 心豊かな町民の育成

◆羅臼町教育の基本方針

- 1 確かな学力や健やかな体、豊かな心など、社会で生きる力の育成を図るとともに、いじめの防止等に向けた取り組みや、規範意識や他者を思いやる倫理観の育成、特別支援教育の充実に関する取り組みを進めます。
- 2 自分の生まれ育った郷土の歴史や文化、産業などに親しみ、理解を深め、ふるさとに愛着を持って発展させていこうとする気持ちを育みます。また、望ましい勤労観・職業観の育成に向けて、若年層に対するキャリア教育や職業教育の一層の充実を図ります。
- 3 地域全体で子どもたちの学びを支援する取り組みを推進するとともに、子育て支援や家庭の教育力の向上などに関する取り組みを進めます。
- 4 幼児教育から高校教育までを連続的につなぐ教育の充実、教職員の資質向上など、質の高い研修機会の提供を進めます。
- 5 持続可能な羅臼の活力ある未来に向けて、町を支える水産業・酪農や観光、食品加工業などの産業に携わる人材の育成を進めます。
- 6 世界自然遺産登録「知床」を通しての環境教育の理解と国際的コミュニケーション能力やチャレンジ精神、異文化に寛容性をもったグローバル人材の育成を進めます。
- 7 ライフステージに応じた学習活動や体験活動の充実、地域づくりなどへの積極的な参画に向けた社会教育の推進などの生涯学習活動を推進します。
- 8 文化活動の振興やスポーツ環境の整備などの文化・スポーツ活動の推進を通じて、羅臼町らしい個性的な文化や芸術の振興を図るとともに、健康で明るく生涯スポーツに取り組める環境の実現をめざします。

＝ 目 次 ＝

第1章 総論

第1節 計画策定の意義	・・・	1
第2節 計画策定の基本的考え方	・・・	2

第2章 社会教育中期計画の目指すもの

羅臼町第7次社会教育中期計画の基本構造	・・・	3
羅臼町第7次社会教育中期計画全体図	・・・	4～5
第1節 ふるさと学習の推進	・・・	6
第2節 ふるさと学習の推進のために	・・・	7
第3節 ふるさと学習の推進のねらい	・・・	8

第3章 4カ年の重点事項

・・・ 9

第4章 現状と課題及び4カ年のアクションプログラム

第1節 乳幼児（家庭）教育	・・・	12～15
第2節 少年教育	・・・	16～19
第3節 青年教育	・・・	20～23
第4節 成人教育	・・・	24～27
第5節 高齢者教育	・・・	28～31
第6節 基盤整備（推進体制）	・・・	32～35
第7節 基盤整備（施設）	・・・	36～39
第8節 団体育成・指導者養成	・・・	40～43

資 料 編

羅臼町第7次社会教育中期計画策定委員会名簿	・・・	46
専門部会及び事務局	・・・	47～48
策定スケジュール	・・・	49

第1章 総論

第1節 「計画策定の意義」

私たちを取り巻く環境は、グローバル化、高度情報化の進展、技術革新による生活の利便性向上など急激に変化し続けています。そして、そのことがより複雑で構造的な課題を抱える要因となっています。インターネットや携帯電話への依存による人間関係の希薄化、少子化、核家族化による家庭・地域の教育力の低下、それに伴う個人のモラルや規範意識の欠如などが今日的な地域社会の課題として指摘されています。

羅臼町は、昭和62年に制定された羅臼町教育目標の実現を目指し、昭和63年に「第1次社会教育中期計画」を策定し、町民の生活課題や学習課題・学習要求を明らかにしながら、学習活動に対する支援・指導体制の充実、学習環境の整備充実を図ってきました。その後、段階的に第2次、第3次の計画を策定し、平成14年に策定された「第4次社会教育中期計画」からは「ふるさと学習の推進」を重点とし、刻々と変化する時代背景の中にあって、地域の特性を磨き活かしながら、自ら考え、主体的に判断し行動する人の育成を目指す施策を展開してきたところです。

羅臼町の人口は昭和40年以降、年々減少傾向で推移しています。年齢区分別の人口では、0～14歳の年少人口、15～64歳までの生産年齢人口は一貫して減少傾向で推移しているものの、65歳以上の老年人口は年々増加傾向で推移しており、少子高齢化が進行しています。

平成26年5月、増田寛也氏を座長とする日本創生会議において「2040年（平成52年）に896の自治体が消滅可能性都市になる」との分析結果を発表されました。この消滅可能性都市には羅臼町も含まれており、将来人口推計では、2010年に5,885人であった人口は2060年には2,008人まで減少すると見込まれ、急速なペースで減少すると推察されています。地域の人口減少や超高齢化等は、税収の減少を招き、働き手の不足による産業や経済の衰退とコミュニティ機能の低下、過疎化に拍車をかけることにつながり、子育てや教育・就業・介護など様々な生活の場面において、町民の自立・協働・創造が一層求められることとなります。また、産業構造に内在する問題や豊かな自然を守り後世に伝えていく責務についても改めて考えていく必要があります。

一方、意識するとならないに関わらず、住民の生涯学習に対する関心の高まりは活動の場を広げ、団体の自主・自立の活動や地域行事に関わる新たな青年層の動き、産業の活性化に向けた個人や企業の取り組みなど、地域の特性や資源をこれまで以上に活かしながら、社会教育活動を展開し得る期待感もあります。加えて、日本創生会議の推計結果を発表したことを受け、策定された「まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、地域を担う人材の育成につながるキャリア教育や、地域に誇りを持つ教育を推進することが明文化され、持続可能な潤いのあるふるさとづくりにおいて、生涯学習・社会教育に寄せる期待や役割は一層大きなものになっています。

これらを踏まえ、常に変容する社会情勢や多様化する町民のニーズを的確に把握し、芸術・文化・スポーツなど様々な分野を有機的に連携させながら、学習機会の充実や情報提供、人材育成などの支援を図り、自主的な動きとしてまちづくりに関わる社会教育活動を推進していくことが求められています。

以上のことから、持続可能な「ふるさと羅臼」の構築と生涯学習社会の確立を目指し、平成28年4月より施行される「第7期羅臼町総合計画」と連動する社会教育に関する中期的計画として、過去4カ年の反省評価を踏まえ、改めて町の現状を分析し社会教育として取り組むべき課題を整理・重点化しながら、その方向性や各種施策をまとめるべく、羅臼町教育大綱をもとに策定するものです。

第1章 総論

第2節「計画策定の基本的考え方」

羅臼町の社会教育は、自ら考え、主体的に判断し行動できる人の育成を目指すため、地域の特性を磨き活かした「ふるさと学習の推進」を重点とします。

1 第7次羅臼町社会教育中期計画の期間

「羅臼町第7期総合計画」（平成28年度～平成35年度）の8カ年計画にあわせ、本計画は平成28年度から平成31年度までの4年間をその期間とします。

2 社会教育計画の性格

羅臼町教育大綱をもとに社会教育目標を定め、羅臼町第7次社会教育中期計画は、「ふるさと学習の推進」の具現化を図りながら今後4カ年の方向性を示した計画です。

<重点> ふるさと学習の推進

<重点目標> ふるさとの良さを発見し〔気づき〕、ふるさとに誇りと愛着を持ち、主体的に行動できる人の育成〔自信と行動〕

<重点事項> ①社会教育推進体制の充実

②未来を担う人材の発掘及び育成の推進

③子育てや家庭教育の充実

④心を結ぶ文化活動と図書活動の推進

⑤豊かな自然を活用した野外教育の推進

⑥総合型地域スポーツクラブと協働したスポーツ振興

3 羅臼町第7期総合計画との関連

羅臼町第7期総合計画と並行し、まちづくりの目指す将来像（方向性）をあわせ、地域提案型のまちづくり、町民との協働（パートナーシップ）によるまちづくりを基本的な考え方とします。

4 社会教育計画の構成

本計画は、下記の項目で構成します。

第1章 総論

第2章 社会教育中期計画の目指すもの

第3章 4カ年の重点事項

第4章 現状と課題及びアクションプログラム

5 社会教育計画の推進

本計画は、町民・各関係機関への周知を図るとともに、密接に連絡調整を進め、町民の学習要求や生活・地域課題を把握しながら計画実践の活性化を図るものとします。また、各事業の充実や見直しを図るため、毎年反省評価を実施します。

第2章 社会教育中期計画の目指すもの

羅臼町第7次社会教育中期計画の基本構造

羅臼町教育大綱 (平成28年度～平成30年度)

◆羅臼町民憲章

わたくしたちは、雄大な知床連峰と、
オホーツクの海原の大自然にはぐくまれた、羅臼の町民です。
一、自然を愛し、先人の強い意志をうけつぎます。
一、健康で、明るく楽しい家庭をつくります。
一、教養を高め、豊かな情操を育てます。
一、仕事に誇りをもち、はたらく喜びに生きます。
一、子どもたちの夢と、若い力を育てます。

<羅臼町第7期総合計画>

(平成28年度～平成35年度)

★将来テーマ

人・まち・自然いきいき 知床創生
～魚の城下町 らうす～

★基本方針テーマ

協働のまちづくり 想像から創造へ
「自助・共助・公助～協働と役割分担・人材育成～」

◆羅臼町教育目標

ふるさと羅臼の躍進を創造し いきいきと逞しく行動する 心豊かな町民の育成

◆羅臼町教育の基本方針

1. 確かな学力や健やかな体、豊かな心など、社会で生きる力の育成を図るとともに、いじめの防止等に向けた取り組みや、規範意識や他者を思いやる倫理観の育成、特別支援教育の充実に関する取り組みを進めます。
2. 自分の生まれ育った郷土の歴史や文化、産業などに親しみ、理解を深め、ふるさとに愛着を持って発展させていこうとする気持ちを育みます。また、望ましい勤労観・職業観の育成に向けて、若年層に対するキャリア教育や職業教育の一層の充実を図ります。
3. 地域全体で子どもたちの学びを支援する取り組みを推進するとともに、子育て支援や家庭の教育力の向上などに関する取り組みを進めます。
4. 幼児教育から高校教育までを連続的につなぐ教育の充実、教職員の資質向上など、質の高い研修機会の提供を進めます。
5. 持続可能な羅臼の活力ある未来に向けて、町を支える水産業・酪農や観光、食品加工業などの産業に携わる人材の育成を進めます。
6. 世界自然遺産登録「知床」を通しての環境教育の理解と国際的コミュニケーション能力やチャレンジ精神、異文化に寛容性をもったグローバル人材の育成を進めます。
7. ライフステージに応じた学習活動や体験活動の充実、地域づくりなどへの積極的な参画に向けた社会教育の推進などの生涯学習活動を推進します。
8. 文化活動の振興やスポーツ環境の整備などの文化・スポーツ活動の推進を通じて、羅臼町らしい個性的な文化や芸術の振興を図るとともに、健康で明るく生涯スポーツに取り組める環境の実現をめざします。

◆社会教育目標

『21世紀をたくましく心豊かに生きるため共に学びあう社会教育を推進する』

1. 地域の課題をみつめ、自主・自立のまちづくりをめざそう
2. 心をむすぶ文化活動で、うるおいあるふるさとづくりをめざそう
3. 健康の増進、コミュニティづくりに役立つスポーツ活動をめざそう

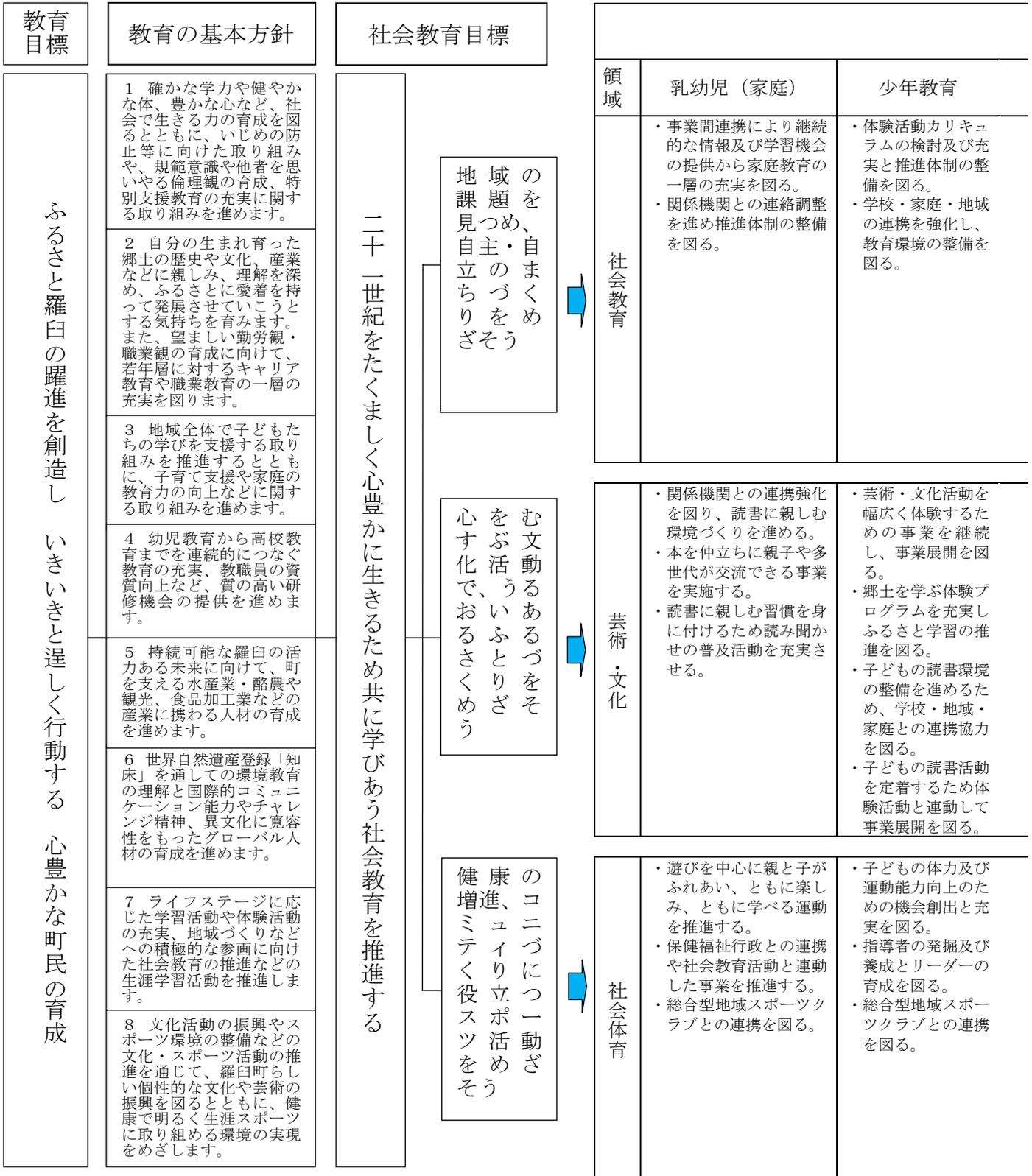
<羅臼町第7次社会教育中期計画> (平成28年度～平成31年度)

【重点】ふるさと学習の推進

【重点目標】ふるさとの良さを発見し〔気づき〕、ふるさとに誇りと愛着を持ち、主体的に行動できる人の育成〔自信と行動〕

- 【重点事項】
1. 社会教育推進体制の充実
 2. 未来を担う人材の発掘及び育成の推進
 3. 子育てや家庭教育の充実
 4. 心を結ぶ文化活動と図書活動の推進
 5. 豊かな自然を活用した野外教育の推進
 6. 総合型地域スポーツクラブと協働したスポーツ振興

重 点	ふるさと学習の推進
重点目標	ふるさとの良さを発見し〔気



づき)、ふるさとに誇りと愛着を持ち、主体的に行動できる人の育成〔自信と行動〕

推 進 事 項

青年教育	成人教育	高齢者教育	基盤整備 (推進体制)	基盤整備 (施設)	団体育成・ 指導者養成
<ul style="list-style-type: none"> ・高校との連携を一層強化し、まちづくりの担い手育成を図る。 ・地域課題やその解決に向けた方策に関する学習機会の提供と核となって行動する人材の発掘及び育成を図る。 ・青年同士の交流や活動に対して機会提供や支援を行う。 ・産業団体等各種青年団との情報共有を促進し連携強化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域課題や郷土に係わる学習への機会提供や支援を図る。 ・関係機関と連携し、自分の老後や将来の地域を見据えた学習活動の促進を図る。 ・地域に内在する課題の調査や研究を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が参加しやすい機会の提供や生きがいがづくりにつながる事業展開を図る。 ・多世代間交流の事業を推進し、知恵と技を活かし継承する等高齢者が活躍する場の提供を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域住民が地域ぐるみで子どもたちを育てる体制づくりを図る。 ・社会教育関係職員の適正配置と研修機会の充実を図る。 ・各種文化財に対して調査を進めるとともに、積極的な保護を行う。 ・自然と文化が一体となって学べる環境の整備及び充実を図る。 ・郷土資料館の周知、管理運営体制の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の老朽化に対応した維持管理と計画的な修繕・整備を図る。 ・中学校改築に伴う複合的な社会教育施設の利活用を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・団体が主催する事業への支援・指導及び助言を通して人材育成を図る。 ・ライフステージに応じた学習内容や手法による学習の推進を図る。 ・自主・自立を目指した団体への継続的な支援を図る。
<ul style="list-style-type: none"> ・町民や関係機関及び各団体と情報共有し連携を図る。 ・活動の場や発表機会を提供することにより人材育成を図る。 ・次世代につなぐ羅臼町の文化の継承を進める。 ・蔵書検索機能を高め、有益な情報にアクセスしやすい環境を整備し図書室の魅力化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力あるプログラムを企画し芸術・文化活動を推進する。 ・生涯学習に応えるための資料を収集し整備を図る。 ・蔵書検索機能を高め、有益な情報にアクセスしやすい環境を整備し図書室の魅力化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・団体やサークルの育成と活動の支援及び充実を図る。 ・高齢者への読書支援情報や資料の提供を行う。 ・関係機関と連携し本を介して多世代が交流する機会を充実する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門職員の適正配置と、町民とともに公民館活動を活性化する推進体制をつくる。 ・司書を適正配置し学校支援を網羅した推進体制をつくる。 ・子どもの読書活動を推進するため計画の整備を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の老朽化に対応した維持管理と計画的な修繕・整備を図る。 ・資料整備及び蔵書検索機能の整備・充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術・文化活動に関わる団体が新規設立できるよう支援する。 ・読み聞かせ活動に対し、やりがいを感じられるよう支援し、研修機会を充実するなどして活動の定着を図る。
<ul style="list-style-type: none"> ・各団体の活動が安定し、かつ継続できるよう支援する。 ・自らが企画する事業への支援及び協力を図り、継続した事業展開を奨励する。 ・地域の指導者の養成を図る。 ・スポーツやレクリエーションに関する効果的な情報発信を図る。 ・総合型地域スポーツクラブとの連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・軽スポーツやレクリエーション事業の充実を図る。 ・保健福祉行政と連携し、健康づくりに重点をおいた事業を推進する。 ・競技スポーツの振興を図る。 ・総合型地域スポーツクラブとの連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康づくり、生きがいがづくりの事業を推進する。 ・保健福祉行政や総合型地域スポーツクラブとの連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・町民ニーズを調査し対応を図る。 ・計画的な生涯スポーツ活動を推進する。 ・指導者養成事業への参加促進を図る。 ・総合型地域スポーツクラブとの連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の老朽化に対応した維持管理と計画的な修繕・整備を図る。 ・既存スポーツ施設の利活用を図る。 ・スポーツ施設を効果的に開放するため、備品の有効活用と整備を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ指導者の発掘及び養成を図り、活躍の場を整備する。 ・団体の自主的活動及び自立していくための支援を行う。 ・地域に根づく総合型地域スポーツクラブの活動を支援する。

第2章 社会教育中期計画の目指すもの

第1節「ふるさと学習の推進」

急激に変化し続ける日本の中で、羅臼町の今後をどのように展望するか、私たちはいつも重要な岐路に立たされています。町の現状は、経済や産業の低迷からくる漠然とした不安感、人口減少、インフラ整備問題など様々な課題を抱えています。今こそ町民をあげて現状を見据え、一人ひとりが担うことのできる役割を考え、未来への明るい展望を切り拓いていかなければなりません。社会教育がその一翼を担い、特に「まちづくり」「人づくり」の中核的役割を果たす必要があると考えます。

「まちづくり」は、だれにとっても心地よく住みやすい、そしてだれもが誇れる「ふるさとづくり」を目指すことと言えます。ふるさとを愛する人が住み、いきいきと汗を流す人がいて、温かな心の交流があり、子や孫のために素晴らしいふるさとを創ろうとする気持ちを共有できる、そんな活力にあふれた「まちづくり」を目指さなければなりません。

生涯学習社会の中で、町民一人ひとりがそれぞれの興味や関心、必要性に応じてさまざまな社会的、文化的、体育的な学習活動を行っています。それらの活動が単に狭い意味での自己完結で終わるのではなく、学習活動を通じて家庭や学校、職場や所属する団体にかかわる中で、地域社会（ふるさと）の現状、良さや素晴らしさ、問題点や課題を意識し、今後の人口減少を見据えて、もっと良い地域にしたいとの願いを強く持ち、行動しようとする町民が増えることを目指したいと考えます。

さらに、知床羅臼の自然環境をはじめ、経済や雇用、伝統文化や風土、生活場面における住民の相互扶助精神といった、地域コミュニティ機能を未来に継承していくことなど、町民一人ひとりが、自分の住んでいる土地を“ふるさと”として実感できるような心の豊かさをもたらす潤いのある地域づくりを進めることが、社会教育の役割であり「ふるさと学習」の意義であると考えます。

これからの社会教育は、今まで以上に「ふるさとづくり」を強く目指す必要があり、中期計画策定にあたり「ふるさと学習の推進」を重点としたのは以上の理由からです。

<ふるさと学習の定義>

『ふるさと学習』（行政側からは『ふるさと教育』）とは、自分が生まれ育ったふるさとの良さを発見し（課題も含め）ふるさとに愛着や誇りをもって、地域づくりに貢献できる「人」を育てることを基本とする。生活条件や環境、そして独自の歴史や風土をもつ地域社会の中で生まれ、地域の自然や社会、文化、産業などと深くかかわる過程で人間関係の輪を広げ、体験を豊かにしながら、地域の自然や文化、生活などを深く焼き付け、地域をより理解し、地域社会の一員としての自覚を高める。このことは、地域への関心を高め、地域を愛し、大切に心や地域を発展させていこうとする意欲や態度を醸成するものである。（『ふるさと教育を推進するために』H10/3 北海道 参照）

第2節「ふるさと学習の推進のために」

<重点目標>

ふるさとの良さを発見し〔気づき〕、ふるさとに誇りと愛着を持ち、主体的に行動できる人の育成〔自信と行動〕

今後4カ年を見据え、各領域及び発達段階ごとに現状を分析し、〔気づき〕及び〔自信と行動〕において、それぞれに目標を設定しながら事業の推進を行い、全体として〔気づき〕と〔自信と行動〕の一連の流れをつくるのがねらいです。

<目標内容>

『ふるさと学習』は、地域への誇りや愛情にもとづくコミュニティ意識の形成を目指した生涯学習活動です。そして、郷土をフィールドとした学習活動を通じて、自然への愛情、郷土への愛、人類愛などにつながる総合的な学習（教育）活動です。社会的・文化的・体育的活動を通じて人との結びつきを広げ、自分たちが楽しみながら地域へのかかわりや働きかけを進めていきます。

〔気づき〕

学習活動を通じてふるさとの良さやすばらしさを体験的に学び、課題や問題点に気づくことを学びます。

〔自信と行動〕

ふるさとに対する誇りや愛着を持たせる事業を通じて「もっとこうしたい」「こうしたら良くなるのでは」というような願いや思いを育み、「自ら主体的に周りに働きかける人」「行動できる人」を育てます。

第3節「ふるさと学習の推進のねらい」

○地域の課題を見つめ、自主・自立のまちづくりをめざそう

長い歴史の中でわが町は、豊かな自然の恩恵を享受し、漁業を基幹産業として経済活動や独自の生活文化を営んできました。社会教育では、わが町ならではの学習素材やフィールドを活用した「ふるさと学習」を進めてきました。今後の4カ年では、この「ふるさと学習」の一層の充実と推進を図るために、幼小中高一貫教育の「知床学」の取り組みと連動した事業展開や、地域・学校・家庭が一体となって地域課題と価値観を共有し、ともに生きるふるさとづくりを目指します。

また、人口減少による過疎化が懸念される現状の中、次世代のまちづくりや地域の活性化には青年層の社会参加が不可欠であるため、各組織や産業団体、個人や企業が総合的に結びつき、協働（総働）の意識を高めながら、青年とともに町の未来図を描く活動展開を図ります。

○心をむすぶ文化活動で、うるおいあるふるさとづくりをめざそう

現代社会においては、生涯学習を通して豊かな心を育み教養を高めることはもとより、情報社会を生きぬく術を身に付けることが必要とされています。町民が孤立することのないあたたかい町をつくるために、芸術・文化活動を通して町民がつながり、心を結ぶ地域づくりが求められています。

文化活動では、団体・サークル等と連携し、芸術文化鑑賞等の機会提供や活動成果の発表機会の一層の充実を図ります。図書活動では、町民の利便性を高めるため、蔵書検索機能の整備充実と次代を担う子ども達の生きる力を育むために各種事業を充実させ、子どもの読書活動の推進を図らなければなりません。また、そのためのボランティア会員の増員や新たなサークルの育成支援を図ります。

○健康の増進、コミュニティづくりに役立つスポーツ活動をめざそう

社会環境が大きく変化している現在、身体を動かす機会の減少、生活習慣病や精神的なストレスの増大、人間関係の希薄化など、様々な問題が顕在化しています。

スポーツ基本法では、スポーツが青少年の健全育成、心身の健康増進、地域社会の再生、社会の活力の創造等、多面にわたる役割を担うことが明記されています。性別や年齢に関わらず、生涯にわたるスポーツの実践と競技スポーツの向上、コミュニティづくりにもつながるため、スポーツ環境の充実を図らなければなりません。今後も関係機関、団体及び総合型地域スポーツクラブ（NPO 法人羅臼スポーツクラブら）と連携し、健康維持、体力づくりの機会創出に努め、生涯スポーツの普及と推進を図ります。

第3章 4力年の重点事項

1. 社会教育推進体制の充実

- (1) 社会教育関係職員の適正配置
- (2) 学校・家庭・地域との連携強化による教育力の向上
- (3) 各種団体への協力・支援及び事業連携の充実

2. 未来を担う人材の発掘及び育成の推進

- (1) 高校生との連携を一層強化したまちづくりの担い手育成
- (2) 地域課題やその解決に向けた方策に関する学習機会の提供と、核となって行動する人材の発掘及び育成

3. 子育てや家庭教育の充実

- (1) 幼稚園・子育て支援センター等関係機関との連携・連絡体制の確立
- (2) 家庭教育に必要な情報等の提供

4. 心を結ぶ文化活動と図書活動の推進

- (1) 関係団体との連携強化による文化活動の活性化
- (2) 本を仲立ちに多世代が交流し人がつながる活動の定着
- (3) 学校図書館とのネットワーク化を進め、子どもの読書活動を充実するための司書の適正配置

5. 豊かな自然を活用した野外教育の推進

- (1) 学校・家庭・地域との連携による少年教育の充実
- (2) ふるさと学習の推進

6. 総合型地域スポーツクラブと協働したスポーツ振興

- (1) 総合型地域スポーツクラブとの連携による事業の展開

第4章 現状と課題及び

4カ年のアクションプログラム



【現状】

＜社会教育活動＞

乳幼児期は人格形成の基礎を培う大切な時期であり、養育する大人との関わりが大きな役割を果たしている。だが、当町では家庭での教育力の低下がみられ、子どもに社会性や基本的な生活習慣を身に付けさせるための行動が取れていない親が多い。これを支援するために関係機関等の事業と連携した情報及び学習機会の提供が行われつつあるが、幅広いニーズに対応した継続的な支援には至っていない。

また、各関係機関との連携については、連絡調整は行われているが、第6次計画の推進項目に掲げた推進体制の整備までには至っていない。

＜芸術・文化活動＞

公民館では、幼稚園と協力して音楽活動や作品展示などの学習発表の場や交流の機会を提供している。

図書室では、保健福祉課と連携しながら子育て支援の側面を強めている。また移動図書館バスによる遠隔地の子育て世帯や幼稚園への巡回を行い、本を身近に利用できる環境づくりを進めながら乳幼児に対する読み聞かせの普及を図っている。しかし、ゲームやSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）など情報通信機器を利用している親世代が多く、家庭教育や読書に対する関心の度合いは二極化傾向が否めない現状にある。

＜社会体育活動＞

近年、地域で遊ぶことも身体を動かして汗を流すことも減ってきている。この時期、スポーツの楽しさや身体を動かすことの心地よさを知ることが、生涯にわたりスポーツに親しむための基礎となるが、発育や発達過程に応じた取り組みがなされていない。

また、若年化傾向にある親には、十分な知識や心構えが希薄であるように思われる。生活する中で、いろいろなものの見方や考え方を身に付けていく時期でもあり、様々な体験ができる時間と環境づくりが必要である。しかしながら、親に対して子どもと一緒にスポーツ、運動に親しむ機会を増やし、身体を動かすことが楽しい、面白いと実感できるような機会提供が不十分である。

【課題】

＜社会教育活動＞

- （1）乳幼児の発達段階に応じた家庭教育について、情報及び学習機会の提供による幅広い支援が必要である。
- （2）家庭教育に対し幅広いニーズに対応した継続的な支援を進める上でも、PTAをはじめとする関係機関との連携強化が必要である。

＜芸術・文化活動＞

- （1）少子化が進む状況の中で、より効果的な活動を行うためには関係機関との連携強化を図る必要がある。
- （2）読書に親しむ習慣を身に付けるため、親子の絆を深めながら本に親しむ事ができる読み聞かせの普及を進める必要がある。
- （3）親子がふれあえる事業や多世代の交流につながる事業の企画や展開が必要である。

＜社会体育活動＞

- （1）乳幼児の運動、健康づくりに関し、現状とニーズを把握する必要がある。
- （2）リズム・バランス運動など、幼児を育てる親への機会提供が必要である。
- （3）保健福祉行政との連携や社会教育活動と連動した事業展開が必要である。

【推進項目】

＜社会教育活動＞

- ・事業間連携により継続的な情報及び学習機会の提供から家庭教育の一層の充実を図る。
- ・関係機関との連絡調整を進め推進体制の整備を図る。

＜芸術・文化活動＞

- ・関係機関との連携強化を図り、読書に親しむ環境づくりを進める。
- ・本を仲立ちに親子や多世代が交流できる事業を実施する。
- ・読書に親しむ習慣を身に付けるため読み聞かせの普及活動を充実させる。

＜社会体育活動＞

- ・遊びを中心に親と子がふれあい、ともに楽しみ、ともに学べる運動を推進する。
- ・保健福祉行政との連携や社会教育活動と連動した事業を推進する。
- ・総合型地域スポーツクラブとの連携を図る。

【アクションプログラム】

分野	推進項目	事業名	対象	関係機関
社会教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・事業間連携により継続的な情報及び学習機会の提供から家庭教育の一層の充実を図る。 ・関係機関との連絡調整を進め推進体制の整備を図る。 	家庭教育学級	保護者	幼稚園 小中学校 PTA 子育て支援センター 保健福祉課
芸術・文化活動	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との連携強化を図り、読書に親しむ環境づくりを進める。 ・読書に親しむ習慣を身に付けるため読み聞かせの普及活動を充実させる。 ・本を仲立ちに親子や多世代が交流できる事業を実施する。 	ふれあいコンサート	幼児～高齢者	サークル 学校等各団体
		ロビー・ホール展示事業	幼児～高齢者	サークル 学校等各団体
		総合文化祭	幼児～高齢者	文化祭実行委員会 (文化協会・子ども会育成協議会)
		ブックスタート事業	乳幼児 保護者	保健福祉課 ブックスタートサポート隊
		本との出会い講演会	幼児 保護者	幼稚園 子育て支援センター 小学校
		図書館バス巡回事業	乳幼児～高齢者	幼稚園 小学校 子育て支援センター
		図書館バス利用ガイダンス	幼児 小学1年生	幼稚園 小学校
		読み聞かせ事業	幼児～高齢者	幼稚園 小学校 子育て支援センター
		読書活動体験事業	幼児～高齢者	小中学校
		読み聞かせボランティア養成講座	保護者 青年～高齢者	幼稚園
		らうす古本市	幼児～高齢者	文化祭実行委員会 (古本市部門)
社会体育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びを中心に親と子がふれあい、ともに楽しみ、ともに学べる運動を推進する。 ・保健福祉行政との連携や社会教育活動と連動した事業を推進する。 ・総合型地域スポーツクラブとの連携を図る。 	スポーツ相談事業	幼児 保護者 (5名以上のグループ)	社会体育団体 保健福祉課 羅臼スポーツクラブらいうず
		総合型地域スポーツクラブ協働事業	幼児～高齢者	羅臼スポーツクラブらいうず

事業推進の年度別指標				
	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度
	各種事業に連携させた学びの提供 関係機関との連絡調整	検証・継続	検証・継続	検証・継続
	新たな出演団体の発掘 積極的な参加奨励とよりふれあい感の持てる内容の工夫			検証・継続
	学習・趣味活動の発表の場、鑑賞の機会提供 団体活動の活性化、活動への動機づけを視野に入れた展示事業			検証・継続
	個人・団体等の活動成果の発表機会の提供と活動の助長 新たな活動者の発掘と展示作品の確保 実行委員会 4 部門（展示・芸能舞台・子ども祭り・古本市）の充実及びより良い事業内容の検討			検証・継続
	入園児及び新入学児童に対するアンケートの実施 事業効果の分析	検証・継続	検証・継続	実施 10 年間の検証
	読書に親しむ習慣づくりの動機づけ	検証・継続	検証・継続	検証・継続
	子育て世帯への巡回 読書に親しむ環境づくりの推進 多世代が交流できる機会の提供			検証・継続
	図書館の利用教育の実施	検証・継続	検証・継続	検証・継続
	読み聞かせの実施	検証・継続	検証・継続	検証・継続
	体験活動と連動した事業の実施			検証・継続
	ボランティア養成のためのミニ講座の実施	実施回数・内容の検討	検証・継続	検証・継続
	年間を通した寄贈の呼びかけ 販売する本の確保と事業内容の充実			検証・継続
	教室開催、指導者派遣等の各種スポーツ相談			検証・継続
	「らいず」が主催する各種事業の企画・運営に対する協力・支援及び連携	検証・継続	検証・継続	検証・継続

【現状】

＜社会教育活動＞

子ども会育成協議会や関係機関との連携及び地域の協力により、体験活動に重点をおいた地域の自然や文化、生活に対する学習が推進されているとともに、異世代間の交流する機会を提供するなど一定の成果が現われている。また、各事業において、対象者よりも年代が上の子ども達がリーダー的役割を担える仕組みを取り入れはじめた。

しかし、その一方で、学校と郷土資料館が連携した「博学連携」は十分な取り組みが行えていない。

＜芸術・文化活動＞

公民館では、ふるさと学習のために多彩なプログラムを企画し、継続実施することで一定の成果を得ている。また、展示事業や鑑賞事業を開催するなど、生の芸術にふれる機会の提供も行っている。

図書室では、町の未来を担う子どもたちの生きる力を育むため、学校やボランティアサークル及び各関係機関と連携協力し、小学校全学年において読み聞かせ事業を実施し読書活動を推進している。さらに、書店の無い町であるため、子どもたちが身近に本を借りることができる移動図書館バスが学校を巡回し、読書に親しむ環境づくりにおいて大きな役割を担っている。

＜社会体育活動＞

子どもたちの体力及び運動能力の低下が叫ばれ、運動が嫌いな子ども、出来ない子どもについては、肥満体型や生活習慣病に繋がる危険性が危惧されている。当町としては、スポーツ少年団活動や総合型地域スポーツクラブの活動を推奨している。

しかし、児童並びに生徒数減少の影響もあり、単一クラブではチーム編成ができず、統合したり活動が制限されたりするスポーツ少年団もある。活発なスポーツ少年団を形成、継続させるために、指導者の発掘及び養成も急務となっている。

【課題】**<社会教育活動>**

- (1) すべての子どもたちが“生きる力”を身に付けられるように体験活動が必要である。
- (2) 体験活動を通じた地域の自然や文化、生活に対する学習を推進するにあたり、スタッフの安定した確保が必要である。
- (3) より充実した教育環境の整備を図るためにも学校・地域・家庭等の一層の連携と、「博学連携」を促進する必要がある。

<芸術・文化活動>

- (1) 良質な舞台芸術作品や美術作品の鑑賞機会の提供が求められる。
- (2) 地域固有の自然・歴史・文化・産業など体験活動を活かした、ふるさとへの理解を深める事業の継続が必要である。
- (3) 人格形成の根となる読書習慣を身に付けるため、読書環境の整備充実が必要である。
- (4) 読み聞かせ活動を継続するためには学校・地域・家庭の協力が必要である。

<社会体育活動>

- (1) 身体を動かす機会の提供が必要である。
- (2) 指導者の発掘及び養成が必要である。
- (3) 自ら進んで身体を動かす習慣や体力を養うことのできる環境づくりが必要である。

【推進項目】**<社会教育活動>**

- ・体験活動カリキュラムの検討及び充実と推進体制の整備を図る。
- ・学校・家庭・地域の連携を強化し、教育環境の整備を図る。

<芸術・文化活動>

- ・芸術・文化活動を幅広く体験するための事業を継続し、事業展開を図る。
- ・郷土を学ぶ体験プログラムを充実し、ふるさと学習の推進を図る。
- ・子どもの読書環境の整備を進めるため、学校・地域・家庭との連携協力を図る。
- ・子どもの読書活動を定着するため体験活動と連動して事業展開を図る。

<社会体育活動>

- ・子どもの体力及び運動能力向上のための機会創出と充実を図る。
- ・指導者の発掘及び養成とリーダーの育成を図る。
- ・総合型地域スポーツクラブとの連携を図る。

【アクションプログラム】

分野	推進項目	事業名	対象	関係機関
社会教育活動	<ul style="list-style-type: none"> 体験活動カリキュラムの検討及び充実と推進体制の整備を図る。 学校・家庭・地域の連携を強化し、教育環境の整備を図る。 	ふるさと少年探険隊	小学4年生～ 中学3年生	子ども会育成協議会 羅臼高等学校
		家庭教育学級	保護者 らうす寺子屋 Kids (小学1～3年生)	幼稚園 小中学校 PTA 子育て支援センター 保健福祉課
芸術・文化活動	<ul style="list-style-type: none"> 芸術・文化活動を幅広く体験するための事業を継続し、事業展開を図る。 郷土を学ぶ体験プログラムを充実しふるさと学習の推進を図る。 子どもの読書環境の整備を進めるため、学校・地域・家庭との連携協力を図る。 子どもの読書活動を定着するため体験活動と連動して事業展開を図る。 	芸術文化鑑賞事業	小学生～高齢者	実行委員会（文化協会）
		ふるさと体験教室	知床 Kids (小学4～6年生) 中学生	知床財団 環境省
		ふれあいコンサート	幼児～高齢者	サークル 学校等各団体
		ロビー・ホール展示事業	幼児～高齢者	サークル 学校等各団体
		総合文化祭	幼児～高齢者	文化祭実行委員会
		本との出会い講演会	幼児 児童 保護者	幼稚園 小学校
		読み聞かせ事業	幼児～高齢者	幼稚園 小学校 ボランティアサークル
		読書活動体験事業	幼児～高齢者	小中学校
		図書館バス巡回事業	乳幼児～高齢者	小中学校
		図書館バス利用ガイダンス	園児 小学1年生	幼稚園 小学校
		らうす古本市	幼児～高齢者	文化祭実行委員会
一日子ども司書	小学3年生	小学校		
社会体育活動	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの体力及び運動能力向上のための機会創出と充実を図る。 指導者の発掘及び養成とリーダーの育成を図る。 総合型地域スポーツクラブとの連携を図る。 	クナシリ眺望駅伝競走大会	小学4年生以上	体育協会 陸上協会
		スポーツ相談事業	小学生 保護者 指導者 (5名以上のグループ)	社会体育団体 保健福祉課 羅臼スポーツクラブらいず
		総合型地域スポーツクラブ協働事業	幼児～高齢者	羅臼スポーツクラブらいず
		リーダー養成事業	小中学生	体育協会 スポーツ少年団本部 羅臼スポーツクラブらいず
		子どもの体力向上事業	園児 小学生 保護者 指導者	羅臼スポーツクラブらいず 保健福祉課 幼稚園 小学校

事業推進の年度別指標				
	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度
	高校生スタッフの募集 参加者に対する高校生スタッフへとつなげる働きかけ 環境教育を含めた事業充実のための内容検討		検証・継続 (第 36 回)	検証・継続 (第 37 回)
	PTA との連携強化 子どもの生活習慣改善事業の実施と検証 (通称:らうす寺子屋 Kids)	子どもの生活習慣改善事業 の関係機関との連携強化	検証・継続	検証・継続
	実施方法の検討と知識・見聞を深めるための事業展開			検証・継続
	郷土を学ぶ体験活動プログラムの実施	検証・継続	検証・継続	検証・継続
	※乳幼児教育参照			
	小学校全学年に対する読み聞かせ事業の実施を通じた読書の動機づけ			検証・継続
	※乳幼児教育参照			
	小中学校の巡回 図書の紹介及び読書機会の提供 利用案内や予約サービスによる読書活動の定着			検証・継続
	※乳幼児教育参照			
	※乳幼児教育参照			
	図書館利用教育の実施と図書の利用促進			検証・継続
	学校等関係機関との協力 による参加奨励	検証・継続 (第 27 回)	検証・継続 (第 28 回)	検証・継続 (第 29 回)
	※乳幼児教育参照			
	※乳幼児教育参照			
	リーダー研修会の実施や参加奨励 各種大会や教室におけるリーダーの活躍の場の提供			検証・継続
	「らいず」と連携した事業 の推進 (COT 等)	検証・継続 (調査研究、データ収集)	検証・継続 (調査研究、データ収集)	検証・継続 (調査研究、データ収集)

【現状】

<社会教育活動>

これからのまちづくりの担い手として期待される青年の活発な活動や社会参加が、持続的かつ活気ある地域づくりには重要である。

町内を網羅していた青年団体が解散し組織的な活動は行われなくなってから久しいが、近年意欲的に取り組む組織が活動を開始するなど、少しずつ動きを見せており、求めや必要に応じた協力及び支援に努めているところである。

<芸術・文化活動>

進学や就職のため転出するなど地元に住み続けたくても雇用の受け皿が少ない現状にあり、町の未来を担う世代の流出を防ぐ手立てが困難な状況にある。

また、この世代の特徴として、必要な情報をインターネット検索で入手することや、SNSによって人とつながっている状況が多いため、集合型・体験型の学習への参加意欲は薄い。公民館事業を通じて高校生に対する活動の場や発表機会を提供しているが、ふるさと学習や青年層の社会参加を促す取り組みにまで発展させることができず、まだまだ地元の人材が定着するに至っていない現状にある。

<社会体育活動>

青年層は学校開放や町民体育館を利用して定期的な集団活動が行われている。しかし、長年続いている各種事業やイベントについては、人口が減少し個人志向が強い傾向にあるため参加者が少なくなっている。

社会体育活動においては、単にスポーツ振興だけにとらわれず、スポーツを介したまちづくりの視点に立つことが重要である。意欲的な若者によるスポーツ活動が、まちづくりや地域貢献につながっていくことが望まれる。

地域リーダーやスポーツ指導者の養成では、各種研修会の情報提供や相談事業の対応などに限られている。

【課題】

<社会教育活動>

- (1) 高校等関係機関との連携を一層強化した、まちづくりの担い手育成が必要である。
- (2) 青年の活動を組織的な活動へつなげていくためにも、リーダーの育成や青年同士が交流を行う機会の提供や支援が必要である。
- (3) 産業団体等各種青年団との連携を強化し、人と人をつなぐ事業展開ができる体制づくりが必要である。

<芸術・文化活動>

- (1) 文化活動を行なう人材を育てるため、町民や関係機関及び各団体と情報共有し連携を図る必要がある。
- (2) 一貫教育で培った学びの成果を継承し、地域に還元する人材育成が必要である。
- (3) 利用者が必要な情報に迅速にアクセスするため蔵書検索機能の整備が必要である。

<社会体育活動>

- (1) 活動する場の環境整備と安定した機会提供が必要である。
- (2) 地域リーダーやスポーツ活動を牽引する指導者を発掘及び養成する必要がある。
- (3) 総合型地域スポーツクラブの安定した活動及び運営体制の支援が必要である。

【推進項目】**<社会教育活動>**

- ・高校との連携を一層強化し、まちづくりの担い手育成を図る。
- ・地域課題やその解決に向けた方策に関する学習機会の提供と核となって行動する人材の発掘及び育成を図る。
- ・青年同士の交流や活動に対して機会提供や支援を行う。
- ・産業団体等各種青年団との情報共有を促進し連携強化を図る。

<芸術・文化活動>

- ・町民や関係機関及び各団体と情報共有し連携を図る。
- ・活動の場や発表機会を提供することにより人材育成を図る。
- ・次世代につなぐ羅臼町の文化の継承を進める。
- ・蔵書検索機能を高め、有益な情報にアクセスしやすい環境を整備し図書室の魅力化を図る。

<社会体育活動>

- ・各団体の活動が安定し、かつ継続できるよう支援する。
- ・自らが企画する事業への支援及び協力を図り、継続した事業展開を奨励する。
- ・地域の指導者の養成を図る。
- ・スポーツやレクリエーションに関する効果的な情報発信を図る。
- ・総合型地域スポーツクラブとの連携を図る。

【アクションプログラム】

分野	推進項目	事業名	対象	関係機関
社会教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生との連携を一層強化し、まちづくりの担い手育成を図る。 ・地域課題やその解決に向けた方策に関する学習機会の提供と核となって行動する人材の発掘及び育成を図る。 ・青年同士の交流や活動に対して機会提供や支援を行う。 ・産業団体等各種青年団との情報共有を促進し連携強化を図る。 	高校生の水産教室	高校3年生	羅臼高等学校 羅臼漁業協同組合
		成人式	新成人	羅臼高等学校
		創作料理プロジェクト	高校生	羅臼高等学校 羅臼漁業協同組合 羅臼町飲食業連合会
		リーダー養成事業	高校生 青年 成人	羅臼高等学校 産業関連団体青年部 羅臼町活性化ワーキンググループ
		(仮称) らうすの未来を語る会	高校生 青年 成人	羅臼漁業協同組合 羅臼町商工会 羅臼町役場 その他
		芸術文化活動振興奨励事業	青年～高齢者	実行委員会組織
		郷土資料館講座	青年～高齢者	
		郷土資料館企画展	青年～高齢者	
芸術・文化活動	<ul style="list-style-type: none"> ・町民や関係機関及び各団体と情報共有し連携を図る。 ・活動の場や発表機会を提供することにより人材育成を図る。 ・次世代につなぐ羅臼町の文化の継承を進める。 ・蔵書検索機能を高め、有益な情報にアクセスしやすい環境を整備し図書室の魅力化を図る。 	知床学講座	青年～高齢者	各団体
		公民館相談事業	5名以上のグループ	各団体
		芸術文化鑑賞事業	少年～高齢者	実行委員会
		ふれあいコンサート	幼児～高齢者	サークル 学校等各団体
		ロビー・ホール展示事業	幼児～高齢者	サークル 学校等各団体
		総合文化祭	幼児～高齢者	文化祭実行委員会
		読み聞かせ事業	幼児～高齢者	幼稚園 小学校 ボランティアサークル
		読書活動体験事業	幼児～高齢者	小中学校
		らうす古本市	幼児～高齢者	文化祭実行委員会
図書館バス巡回事業	乳幼児～高齢者	子育て支援センター		
社会体育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・各団体の活動が安定し、かつ継続できるよう支援する。 ・自らが企画する事業への支援及び協力を図り、継続した事業展開を奨励する。 ・地域の指導者の養成を図る。 ・スポーツやレクリエーションに関する効果的な情報発信を図る。 ・総合型地域スポーツクラブとの連携を図る。 	スポーツ相談事業	18歳以上 (5名以上のグループ)	社会体育団体 保健福祉課 羅臼スポーツクラブらいず
		クナシリ眺望駅伝競走大会	小学4年生以上	体育協会 陸上協会
		総合型地域スポーツクラブ協働事業	幼児～高齢者	羅臼スポーツクラブらいず
		指導者養成事業	高校生以上	体育協会 スポーツ少年団本部 羅臼スポーツクラブらいず

事業推進の年度別指標				
	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度
	事業内容の充実と継続 (第 32 次)	検証・継続 (第 33 次)	検証・継続 (第 34 次)	検証・継続 (第 35 次)
	実行委員会組織による実施の検討	実行委員会組織による実施	運営委員会との検証 継続	運営委員会との検証 継続
	3 カ年計画最終年度 次期プログラムに向けた検討 成果品の商品化検討	キャリア教育につながる プログラム充実	検証・継続	検証・継続
	各種事業との連動 スタッフ的な関わりによる リーダー養成の実施	検証・継続	検証・継続	検証・継続
	情報交流事業の企画・検証	地域課題に対応した事業 内容の検討・協議	事業実施	事業の充実、検証
	町民対象の芸術・文化事業の実施団体に対する助成			検証・継続
	企画展と連動した講座の開催			検証・継続
	自然と文化を一体として学べる企画展の開催			検証・継続
	大人版ふるさと体験学習 (一部知床 Kids の講師と 連動)	他機関との連携及び事業 の検証	検証結果を踏まえた実施 方法の検討	学びを活かす機会提供を 検討し実施
	町内各グループ・サークルの自主的活動に対する継続した支援			検証・継続
	※少年教育参照			
	※乳幼児教育参照			
	※乳幼児教育参照			
	※乳幼児教育参照			
	本を仲立ちに多世代が交流する機会の提供			検証・継続
	※乳幼児教育参照			
	※乳幼児教育参照			
	市街地からより遠方に居住する町民の利便性向上			検証・継続
	教室開催、指導者派遣等の各種スポーツ相談 学校開放事業と連動した自主的活動の支援 町民やサークルに対する相談窓口の周知			検証・継続
	気軽に参加できる大会づくり	検証・継続 (第 27 回)	検証・継続 (第 28 回)	検証・継続 (第 29 回)
	※乳幼児教育参照			
	各種指導者研修会の実施や参加奨励			検証・継続

【現状】

<社会教育活動>

団体活動を中心に、地域課題に即したテーマを取り上げて活動の支援を行っている。また、郷土資料館では、講座や企画展等の開催により、羅臼の文化や自然・歴史について学習する機会の提供が図られつつあるが、継続的な学習の場の提供までには至っていない。また、地域課題に関する取り組みや学習機会（集合学習）への参加率は低い状況にある。

<芸術・文化活動>

漁業従事者が多い当町では、生活時間帯などの地域事情もあり芸術・文化活動への参加が難しい町民も多い。さらに、魅力ある講座や教室を維持するためには講師の確保が必要だが、財政的に確保し難い状況にある。また、公民館施設やホール機材の老朽化に加え、付帯設備にも不具合が著しく各種活動に支障をきたしている。

図書室では、生涯学習を支援するため、町民の多種多様な学習要求や個々の生活課題、地域課題に対応した資料収集を行っている。また、図書の企画展示なども行っているが、情報発信の手段が限られており、町民にとって有益な情報を届けにくい現状にある。

<社会体育活動>

多様化するライフスタイルと、生活を取り巻く様々な外的要因等から、競技スポーツを行う町民は減少傾向にある。しかし、健康の保持増進を目的としたスポーツ活動は、それぞれの余暇時間に合せて行われており、スポーツに親しむ機会を求める声も多い。

総合型地域スポーツクラブと連携を図り、スポーツ人口の裾野拡大と町民の多様なニーズに対応したスポーツ機会の提供を行っている。

【課題】**<社会教育活動>**

- (1) 関係機関とも連携を図り、地域課題や郷土に関する魅力的な学習機会の提供が必要である。
- (2) 社会活動に参画するきっかけとなる事業展開が必要である。

<芸術・文化活動>

- (1) 潤いのある充実した生活を送るため、魅力ある講座の企画が必要である。
- (2) 潜在的な課題への気づきを促し、それを解決するために役立つ資料収集が必要である。
- (3) 図書資料を活かした情報発信の機会を充実させる必要がある。

<社会体育活動>

- (1) 多様化する志向と性別や各世代のニーズに対応する必要がある。
- (2) 生活習慣病等の予防及び改善策への対応が必要である。
- (3) 競技スポーツの振興を図る必要がある。

【推進項目】**<社会教育活動>**

- ・地域課題や郷土に係わる学習への機会提供や支援を図る。
- ・関係機関と連携し、自分の老後や将来の地域を見据えた学習活動の促進を図る。
- ・地域に内在する課題の調査や研究を進める。

<芸術・文化活動>

- ・魅力あるプログラムを企画し芸術・文化活動を推進する。
- ・生涯学習に応えるための資料を収集し整備を図る。
- ・蔵書検索機能を高め、有益な情報にアクセスしやすい環境を整備し図書室の魅力化を図る。

<社会体育活動>

- ・軽スポーツやレクリエーション事業の充実を図る。
- ・保健福祉行政と連携し、健康づくりに重点をおいた事業を推進する。
- ・競技スポーツの振興を図る。
- ・総合型地域スポーツクラブとの連携を図る。

【アクションプログラム】

分野	推進項目	事業名	対象	関係機関
社会教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・地域課題や郷土に係る学習への機会提供や支援を図る。 ・関係機関と連携し、自分の老後や将来の地域を見据えた学習活動の促進を図る。 ・地域に内在する課題の調査や研究を進める。 	調査・研究	乳幼児～高齢者	各種産業団体等 社会教育関係団体
		家庭教育学級	保護者 らうす寺子屋 Kids (小学1～3年生)	幼稚園 小中学校 PTA 子育て支援センター 保健福祉課
		郷土資料館講座	青年～高齢者	
		郷土資料館企画展	青年～高齢者	
芸術・文化活動	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力あるプログラムを企画し芸術・文化活動を推進する。 ・生涯学習に応えるための資料を収集し整備を図る。 ・蔵書検索機能を高め、有益な情報にアクセスしやすい環境を整備し図書室の魅力化を図る。 	知床学講座	青年～高齢者	各団体
		情報発信事業	少年～高齢者	保健福祉課
		公民館相談事業	5名以上のグループ	各団体
		芸術文化鑑賞事業	少年～高齢者	実行委員会
		ふれあいコンサート	幼児～高齢者	サークル 学校等各団体
		ロビー・ホール展示事業	幼児～高齢者	サークル 学校等各団体
		総合文化祭	幼児～高齢者	文化祭実行委員会
		読み聞かせ事業	幼児～高齢者	幼稚園 小学校 ボランティアサークル
		読書活動体験事業	幼児～高齢者	小中学校
		本との出会い講演会	幼児 児童 保護者	幼稚園 小学校
		読み聞かせボランティア養成講座	青年～高齢者	幼稚園
		まち愛ホール健康講座 出前図書室	青年～高齢者	診療所 保健福祉課 その他 (多職種連携)
		らうす古本市	幼児～高齢者	文化祭実行委員会
図書館バス巡回事業	乳幼児～高齢者	子育て支援センター		
社会体育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・軽スポーツやレクリエーション事業の充実を図る。 ・保健福祉行政と連携し、健康づくりに重点をおいた事業を推進する。 ・競技スポーツの振興を図る。 ・総合型地域スポーツクラブとの連携を図る。 	スポーツ相談事業	18歳以上～高齢者 (5名以上のグループ)	社会体育団体 保健福祉課 羅臼スポーツクラブらいず
		クナシリ眺望駅伝競走大会	小学4年生以上	体育協会 陸上協会
		総合型地域スポーツクラブ協働事業	幼児～高齢者	羅臼スポーツクラブらいず
		指導者養成事業	18歳以上～高齢者	体育協会 スポーツ少年団本部 羅臼スポーツクラブらいず

事業推進の年度別指標				
平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	
内在する課題を明確にするための協議・検討 課題の設定 関係機関との解決策に向けた協議			検証・継続	
※少年教育参照				
※青年教育参照				
※青年教育参照				
※青少年教育参照				
ホームページを活用した 子育てに必要な情報発信	利用拡大のための PR	検証・継続	検証・継続	
※青年教育参照				
※少年教育参照				
※乳幼児教育参照				
※乳幼児教育参照				
※乳幼児教育参照				
※青年教育参照				
※青年教育参照				
※乳幼児教育参照				
※乳幼児教育参照				
町民の健康づくりにつながる資料紹介 生きがいつくりの支援			検証・継続	
※乳幼児教育参照				
※青年教育参照				
教室開催、指導者派遣等の各種スポーツ相談 学校開放事業と連動した自主的活動の支援 保健福祉行政と連携した出前教室の開催 町民やサークルに対する相談窓口の周知			検証・継続	
競技志向の参加者にも対 応した内容検討	検証・継続 (第 27 回)	検証・継続 (第 28 回)	検証・継続 (第 29 回)	
※乳幼児教育参照				
各種指導者研修会、ニュースポーツ講習会等の実施や参加奨励 ニーズに応じた生涯スポーツにつながる各種資格認定制度の情報提供			検証・継続	

【現状】

<社会教育活動>

当町においても高齢化社会へと急速に進んでいる中で、高齢者が「生きがい」や「心の豊かさ」をもつことは個人にとっても、地域の維持や発展の上でも重要である。

関係機関や公民館・図書室・郷土資料館で行われている各種事業と連携し、高齢者の学習機会や多世代間交流等を通じて豊かな人生経験や能力を発揮する場を支援しているが、参加者の固定化や男性の参加率が低い等の状況が見られる。

郷土資料館では成人教育の延長とした生きがいづくりや、知恵・技を活かし継承する等の高齢者に特化した取り組みは行われていない。

<芸術・文化活動>

公民館事業では、高齢者を対象とした各種事業や講座を開催しているが、男性の参加が少ない状況にある。また、各種団体やサークルの会員も固定化した状況にあり、さらに高齢化が進んでいるため活動回数においても減少傾向にある。

図書室では、市街地から離れた高齢者世帯の読書支援として図書館バスで巡回し本を届けてきた。また、診療所や各関係機関と連携して講座を行い、定期的に町民の健康課題に対応した図書や情報の提供を行っている。

<社会体育活動>

高齢になるにつれ運動機能や筋力が低下し、主たる活動の場が家庭や身近な地域へと狭まる傾向にあることから、健康づくり事業等により、健康の保持・増進及び体力づくり等を目的に事業展開を進めている。しかしながら、参加人数は多いが固定化傾向にあることや、男性の参加者が少ない状況である。高齢者が健康で生きがいをもって暮らしていける環境づくりと、介護予防という観点からも、保健福祉行政・総合型地域スポーツクラブ及び関係機関と連携を図り、スポーツ機会の提供を行っている。

【課題】**<社会教育活動>**

- (1) 高齢者が参加しやすい機会の提供や事業展開が必要である。
- (2) 郷土資料館では、高齢者を対象とした生きがづくりや、知恵・技を活かし後世に継承する取り組みが必要である。

<芸術・文化活動>

- (1) 各種関連団体やサークル活動の活性化を図る必要がある。
- (2) 高齢者がもつ知恵や技術を伝承する機会提供が必要である。
- (3) 急速な高齢化に対応した地域づくりを進めるため、各種機関と連携して創意工夫をもって多世代が交流する機会をつくる必要がある。

<社会体育活動>

- (1) 健康の保持及び増進を意識した事業の企画と誰もが参加しやすい事業の展開が必要である。
- (2) 保健福祉行政や関係団体との共同事業の充実が必要である。

【推進項目】**<社会教育活動>**

- ・高齢者が参加しやすい機会の提供や生きがづくりにつながる事業展開を図る。
- ・多世代間交流の事業を推進し、知恵と技を活かし継承する等高齢者が活躍する場の提供を図る。

<芸術・文化活動>

- ・団体やサークルの育成と活動の支援及び充実を図る。
- ・高齢者への読書支援、情報や資料の提供を行う。
- ・関係機関と連携し本を介して多世代が交流する機会を充実する。

<社会体育活動>

- ・健康づくり、生きがづくりの事業を推進する。
- ・保健福祉行政や総合型地域スポーツクラブとの連携を図る。

【アクションプログラム】

分野	推進項目	事業名	対象	関係機関
社会教育活動／芸術・文化活動	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が参加しやすい機会の提供や生きがいがづくりにつながる事業展開を図る。 ・多世代間交流の事業を推進し、知恵と技を活かし継承する等高齢者が活躍する場の提供を図る。 ・団体やサークルの育成と活動の支援、充実を図る。 ・高齢者への読書支援、情報や資料の提供を行う。 ・関係機関と連携し本を介して多世代間が交流する機会を充実する。 	大活字本整備事業	高齢者	
		図書館バス巡回事業	乳幼児～高齢者	
		こまぐさ学級	高齢者（60歳以上）	幼稚園 保健福祉課 診療所
		まち愛ホール健康講座 出前図書室	青年～高齢者	診療所 保健福祉課 その他
		知床学講座	青年～高齢者	各団体
		芸術文化鑑賞事業	少年～高齢者	実行委員会
		ふれあいコンサート	幼児～高齢者	サークル 学校等各団体
		ロビー・ホール展示事業	幼児～高齢者	サークル 学校等各団体
		総合文化祭	幼児～高齢者	文化祭実行委員会
		読み聞かせ事業	幼児～高齢者	幼稚園 小学校 ボランティアサークル
		読書活動体験事業	幼児～高齢者	小中学校
		らうす古本市	幼児～高齢者	文化祭実行委員会
		郷土資料館講座	青年～高齢者	
郷土資料館企画展	青年～高齢者			
社会体育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・健康づくり、生きがいがづくりの事業を推進する。 ・保健福祉行政や総合型地域スポーツクラブとの連携を図る。 	スポーツ相談事業	高齢者 (5名以上のグループ)	社会体育団体 保健福祉課 社会福祉協議会 羅臼スポーツクラブらいうず
		クナシリ眺望駅伝競走大会	小学4年生以上	体育協会 陸上協会
		総合型地域スポーツクラブ協働事業	幼児～高齢者	羅臼スポーツクラブらいうず

事業推進の年度別指標			
平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度
高齢者が読みやすい大活字本を年間 25 冊の整備目標、4 年間で 100 冊確保		検証・継続	
高齢者福祉施設の巡回 生活に潤いが持てるような図書の紹介及び提供 巡回場所における多世代が交流できる機会の提供		検証・継続	
関係機関と連携し、生きが いづくりにつながる事業 の実施 プログラムの開発と充実	検証・継続	検証・継続	検証・継続
※成人教育参照			
※青年教育参照			
※少年教育参照			
※乳幼児教育参照			
※乳幼児教育参照			
※乳幼児教育参照			
※青年教育参照			
※青年教育参照			
※乳幼児教育参照			
※青年教育参照			
※青年教育参照			
教室開催、指導者派遣等の各種スポーツ相談 町民やサークルに対する相談窓口の周知 保健福祉行政や社会福祉協議会と連携した出前教室の開催		検証・継続	
健康づくりや生きがいづ くり結びつく事業展開	検証・継続 (第 27 回)	検証・継続 (第 28 回)	検証・継続 (第 29 回)
※乳幼児教育参照			

【現状】

<社会教育活動>

各種機関・団体との連携により多くの事業が成果を上げているが、社会教育関係職員・社会教育主事の安定的な体制確保がなされていないことにより、学校との連携不足や地域課題ともなっている青年活動の活性化に向けて充分に対応ができていない。

また、職員研修の参加についても、財政基盤の悪化や職員数の縮小などにより、研修機会の減少も余儀なくされることも多く、地域に対する必要課題・要求課題へ対応することへの難しさの要因の一つとなっている。

郷土資料館においては、町内に平成 27 年 9 月に新たに重要文化財に指定された「北海道松法川北岸遺跡」を含めて、国・道・町指定文化財が 12 件、埋蔵文化財包蔵地が 79 カ所、その他多数の郷土資料があり、文化財保護の推進が図られつつある。活用に関しては文化財の個体毎に留まっている。また、観光資源としての活用を推進している上で、施設の管理運営体制が不十分となっている。

<芸術・文化活動>

芸術・文化活動を活発にし、町民の生涯学習を支援する公民館活動を推進していくためには、魅力ある講座の開催やサークルの育成を支援する必要がある。しかし、専門職員が配置されていないことや職員削減による影響で事業消化型になっており、相談事業も出来ない状況にある。

図書室の職員体制は平成 17 年度より 1 名減のままとなっており、臨時職員が配置されたが継続雇用は 3 年までの制限があるため事業の推進体制は安定していない。

また、学校図書館法では平成 28 年度より学校司書の配置が努力義務化となるため、学校図書館とのネットワーク化を考慮した推進体制の整備が急がれる。

<社会体育活動>

町民一人ひとりがスポーツを主体的に取り組むことができるように、社会全体で支援していくことが重要である。そのために、地域・スポーツ関係団体・行政等がそれぞれの特色を活かしながら連携を図り、誰もが気軽にスポーツを楽しめる環境整備を図っているところではあるが、競技人口の減少や指導者の発掘及び養成、運営体制の支援など課題も多い。

【課題】

<社会教育活動>

- (1) 学校・家庭・地域との連携を強化する必要がある。
- (2) 社会教育職員や専門職員の研修機会の充実及び適正配置を図る必要がある。
- (3) 各種文化財の自然等の影響による破壊や消滅があり、積極的な保護が必要である。
- (4) 文化財等の効果的な教育・観光活用に関しては、自然と文化が一体となって学べる環境の整備が必要である。
- (5) 郷土資料館の観光資源としての活用を図る上で、周知及び臨時職員を含めた管理運営体制の充実が必要である。

<芸術・文化活動>

- （1）町民の発想力や行動力を活用した民間型の活動を模索し、公民館活動を活性化していく必要がある。
- （2）中長期的な計画に基づいた事業展開を図るためには専門職員の適正配置が必要である。
- （3）「子どもの読書活動に関する法律」（平成13年12月施行）に基づき、「子どもの読書活動推進計画」を策定する必要がある。

<社会体育活動>

- （1）多様化するスポーツへのニーズに対応する必要がある。
- （2）総合型地域スポーツクラブへの安定した活動支援が必要である。

【推進項目】

<社会教育活動>

- ・保護者や地域住民が地域ぐるみで子どもたちを育てる体制づくりを図る。
- ・社会教育関係職員の適正配置と研修機会の充実を図る。
- ・各種文化財に対して調査を進めるとともに、積極的な保護を行う。
- ・自然と文化が一体となって学べる環境の整備及び充実を図る。
- ・郷土資料館の周知、管理運営体制の充実を図る。

<芸術・文化活動>

- ・専門職員の適正配置と、町民とともに公民館活動を活性化する推進体制をつくる。
- ・司書を適正配置し学校支援を網羅した推進体制をつくる。
- ・子どもの読書活動を推進するために計画の整備を図る。

<社会体育活動>

- ・町民ニーズを調査し対応を図る。
- ・計画的な生涯スポーツ活動を推進する。
- ・指導者養成事業への参加促進を図る。
- ・総合型地域スポーツクラブとの連携を図る。

【アクションプログラム】

分野	推進項目	事業名	対象	関係機関
社会教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域住民が地域ぐるみで子どもたちを育てる体制づくりを図る。 ・社会教育関係職員の適正配置と研修機会の充実を図る。 ・各種文化財に対して調査を進めるとともに、積極的な保護を行う。 ・自然と文化が一体となって学べる環境の整備・充実を図る。 ・郷土資料館の周知、管理運営体制の充実を図る。 	社会教育委員の会	社会教育委員兼公民館運営審議委員	スポーツ推進委員 文化財保護調査委員
		学校教育行事補完事業	小中学生	学校教育行事運営審議委員会
		各種教育団体派遣助成事業（文化団体）	小学生～高校生	
		社会教育関係職員研修	社会教育関係職員	
		文化財保護調査委員会	文化財保護調査委員	社会教育委員の会
		天然記念物指定鳥類保護監視員会	保護監視員	文化庁 北海道教育委員会
		埋蔵文化財保護事業		北海道教育委員会
		国指定重要文化財保護事業		文化庁 北海道教育委員会
		町内オジロ・オオワシー斉調査		オジロ・オオワシモニタリンググループ 天然記念物指定鳥類保護監視員会
道指定天然記念物保護事業	保護監視員	北海道教育委員会 羅臼のひかりごけ保存会		
芸術・文化活動	<ul style="list-style-type: none"> ・専門職員の適正配置と、町民とともに公民館活動を活性化する推進体制をつくる。 ・司書を適正配置し学校支援を網羅した推進体制をつくる。 ・子どもの読書活動を推進するために計画の整備を図る。 	公民館利用者懇談会	公民館利用団体	
		郷土芸能振興事業	小学生～一般	小中学校
		子どもの読書活動推進計画策定		保健福祉課 各団体 小中学校 幼稚園 PTA
社会体育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・町民ニーズを調査し対応を図る。 ・計画的な生涯スポーツ活動を推進する。 ・指導者養成事業への参加促進を図る。 ・総合型地域スポーツクラブとの連携を図る。 	体育館利用者懇談会	体育館利用団体	羅臼スポーツクラブらいず
		調査・研究	幼児～高齢者	
		スポーツ推進委員会	スポーツ推進委員	社会教育委員の会
		各種教育団体派遣助成事業（体育団体）	小学生～高校生	社会教育関係団体

事業推進の年度別指標					
平成 28 年度		平成 29 年度		平成 30 年度	平成 31 年度
地域課題に関する主体的な学習の促進及び調査・研究 解決に向けた取り組み等による委員活動の活性化		第7次社会教育中期計画の反省評価の実施 (平成31年度：第8次中期計画策定)			
小中学校と教育委員会による運営委員会の組織 少年芸術劇場、児童・生徒美術書道展、小学校陸上運動大会の開催				検証・継続	
予算確保		検証・継続		検証・継続	検証・継続
積極的な研修機会の確保による職員の資質の向上 社会教育主事、図書室司書等の専門職員の配置要請				検証・継続	
文化財の保護調査		検証・継続		検証・継続	検証・継続
国指定天然記念物の通常 監視、モニタリング調査		検証・継続		検証・継続	検証・継続
埋蔵文化財包蔵地の保護 文化財パトロール		検証・継続		検証・継続	検証・継続
指定品の現況調査 修理計画の策定			修理の実施		検証・継続
オジロワシ・オオワシ飛 来数調査の実施		検証・継続		検証・継続	検証・継続
間欠泉モニタリング調査 ひかりごけの保護増殖		検証・継続		検証・継続	検証・継続
住民の視点に立った開放 体制等の意見聴取		検証・継続 (施設使用料検証年度)		検証・継続	検証・継続 (施設使用料検証年度)
郷土芸能「知床いぶき樽」の伝承支援				検証・継続	
アンケート調査の実施 策定会議の開催		子どもの読書活動推進 計画策定		学校図書館とのネット ワーク確立 推進体制の充実	検証・継続
利用団体からの意見聴取 と反映		検証・継続 (施設使用料検証年度)		検証・継続	検証・継続 (施設使用料検証年度)
各スポーツ事業満足度アンケートの実施 スポーツニーズ把握のための調査・研究				検証・継続	
年3回開催 地域のスポーツ課題に係る調査・研究及び事業協力			検証・継続		
予算確保		検証・継続		検証・継続	検証・継続

第7節 基盤整備（施設）

【現状】

郷土資料館は平成23年12月の移転以来、平成24年には収蔵庫（旧体育館）の雨漏りによる改修、平成26年の重要文化財の保管、展示に係わる改修が図られている。建物自体は築27年以上経過しており、各設備も基本的には小中学校時のものを使用していることから老朽化による修繕が例年のようにある。

公民館の老朽化に加え付帯設備も経年劣化と不具合が著しく、各種事業の実施に支障をきたす状況となっていることから、施設・設備の整備が求められる。

図書室は限られたスペースの中で資料の収集・整理・保存・貸出の機能を果たしている。また、社会では情報のグローバル化が進んでいるが、インターネット上で蔵書検索できる機能がないため、町民にとって有益な情報提供ができていない状況にある。

生涯学習社会の視点では、社会教育活動の展開はありとあらゆる場で想定されるが、町として位置付ける社会教育（体育含む）施設は次のとおりである。

施設名	開設年	所在	面積	備考
① 羅臼町公民館	昭和45年	栄町	1,742.062 m ² (図書室：185 m ²)	平成22年内部全面改装
② 羅臼町民体育館	昭和49年	栄町	2,904.6 m ²	平成21年アリーナ床塗装 平成22年内部全面改装 平成25年度より指定管理者 制度導入
③ 羅臼町民スキー場	昭和55年	礼文町	169,050 m ²	平成20年度よりリフト休止
④ 羅臼町民温水プール	昭和60年	湯の沢町	1,072 m ²	施設管理は町長部局
⑤ 羅臼町営野球場	昭和57年	幌萌町	12,592 m ²	
⑥ 羅臼町営テニスコート	昭和58年	幌萌町	2,320 m ²	
⑦ 羅臼町営ゲートボール場	昭和63年	幌萌町	2,371.36 m ²	
⑧ 羅臼町営パークゴルフ場	平成4年	幌萌町	52,500 m ²	
⑨ 羅臼小学校コミュニティセンター 「優・遊・悠」	平成7年	本町	校舎：4,235 m ² 屋体：1,291 m ²	自主管理運営方式
⑩ 春松小学校コミュニティセンター	平成18年	八木浜町	校舎：3,564 m ² 屋体：1,018 m ²	自主管理運営方式
⑪ 羅臼町郷土資料館	平成23年	峯浜町	1,810.76 m ²	
⑫ 峯浜緑地広場 【旧植別小中学校グラウンド】	平成22年	峯浜町	9,882 m ²	

社会教育施設については、財政状況と老朽化を考慮しながら、必要最低限の施設補修や備品の整備等を行い、効果的な施設利用を行っている。平成21年から平成22年にかけては公民館及び体育館の内外装の改装を行ったが、構造的には古いままであり、耐震機能も十分ではない。

スポーツ施設についても財政状況の悪化が影響し、町民スキー場のリフトは休止状態が続いており、温水プールについても5月から9月までの5カ月間しか利用できない状況から、冬期間に町民が気軽にスポーツを楽しむ場が少なくなっている。加えて、スポーツ施設全般において老朽化が顕著である。

また、学校開放事業については、自主管理運営方式により多くの団体やサークルの活動拠点として利用されている。

【課題】

- (1) 経年により老朽化した施設の適正な維持管理と計画的な修繕・整備を行う必要がある。
- (2) 蔵書検索機能の充実や町民に有益な情報提供を行うシステム作りが必要である。
- (3) 公民館図書室の狭隘化解消と、子育て中の世代や子どもの学習環境に配慮した環境整備が必要である。
- (4) 中学校の改築に伴う、複合的な利活用の検討が必要である。
- (5) 冬期間のスポーツ活動に対応する環境整備が必要である。

【推進項目】

- ・施設の老朽化に対応した維持管理と計画的な修繕・整備を図る。
- ・中学校改築に伴う複合的な社会教育施設の利活用を推進する。
- ・資料整備及び蔵書検索機能の整備・充実を図る。
- ・既存スポーツ施設の利活用を図る。
- ・スポーツ施設を効果的に開放するため、備品の有効活用と整備を図る。

【アクションプログラム】

分野	推進項目	事業名	対象	関係機関
社会教育活動	<ul style="list-style-type: none"> 施設の老朽化に対応した維持管理と計画的な修繕・整備を図る。 中学校改築に伴う複合的な社会施設の利活用を推進する。 	学校開放事業 (自主管理運営方式)	グループ・サークル	羅臼小学校 春松小学校 知床未来中学校 (H30～) 運営委員会
		郷土資料館の維持・管理		
		郷土資料の収集・保存		
芸術・文化活動	<ul style="list-style-type: none"> 施設の老朽化に対応した維持管理と計画的な修繕・整備を図る。 資料整備及び蔵書検索機能の整備・充実を図る。 	図書資料整備事業		
		蔵書検索機能の充実		
		公民館及び図書室の維持・管理		
社会体育活動	<ul style="list-style-type: none"> 施設の老朽化に対応した維持管理と計画的な修繕・整備を図る。 既存スポーツ施設の利活用を図る。 スポーツ施設を効果的に開放するため、備品の有効活用と整備を図る。 	学校体育施設開放事業 (管理指導員方式)	グループ・サークル	羅臼中学校 (～H29) 春松中学校 (～H29)
		体育施設の維持・管理		

事業推進の年度別指標				
	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度
	運営委員会組織の充実 知床未来中学校開校に伴う学校開放の効果的な利用方法の検討	知床未来中学校開校に伴う学校開放に向けた条件整備 運営委員会組織検討	知床未来中学校開校に伴う学校開放運用開始 運営委員会発足	検証・継続
	学校授業での活用等、施設の有効利用 観光資源としての活用			検証・継続
	郷土資料寄贈 資料の整備・保管			検証・継続
	町民一人ひとりの資料要求にきめ細かく対応した個人学習への支援につながる予算の確保			検証・継続
	情報収集と内容の検討	公民館図書管理システムのバージョンアップ インターネット上の蔵書公開	学校図書館蔵書データベース作成	学校図書館と公民館図書室のネットワーク稼働
	既存施設の継続的活用 公民館、図書室備品の整備・充実 図書館バスの購入			検証・継続
	グループ・サークルへ効果的な学校施設開放	管理指導員方式最終年度	検証・継続	
	冬期間におけるスポーツ施設環境の実態調査 老朽化したスポーツ施設の計画的な修繕・整備及び適正な維持管理 スポーツ施設の効果的な管理運営			

【現状】

＜社会教育活動＞

自主・自立を目指した団体への継続的な支援を行いながら、指導者の発掘及び育成に努めてきているが、団体によっては役員の交代や会員の増減等、常に状況の変化が激しい。団体の実態から“自主自立型”と“行政依存型”に分れ見ることができ、その時折々の役員体制等にも大きく影響することから、行政の継続的で安定した支援を望む声も多い。

地域住民が地域の一員としての自覚を持ち、地域づくり等の活動に積極的に参画できるよう主体的な担い手をつくる仕組みづくりが急務である。

＜芸術・文化活動＞

公民館を利用して活動を行う人は固定化しており、新規団体の立ち上げは若干あったものの、継続に苦慮している状況である。また、既存の団体は新規会員を勧誘する意欲が薄く、習得した技術を町に還元する活動や趣味活動を広めようとする意識も低い実態である。さらに、芸術・文化活動の要となる文化協会も会員の固定化や高齢化が進んでおり、将来的な維持について不安がある。

図書室活動に関わる団体は2団体あり、地域を分担してそれぞれ読み聞かせ活動を行っている。町内小学校の全学年に読み聞かせを実施するなど活動回数も徐々に増え、研修機会を提供することで活動内容も充実してきた。図書室・小学校・ボランティア団体の三者連携は、子どもの読書や教育に関心のある町の醸成を図る上で大きな力となっている。

＜社会体育活動＞

生涯スポーツの振興、競技スポーツを推進するためには、スポーツの潜在人口の掘り起し、更にスポーツの日常化を図っていく必要があり、そのためには、スポーツ指導者の発掘及び養成は重要であるが、当町のスポーツ指導者数は不足している。

国や各種スポーツ団体において、指導者養成講座等を実施しており、町としても各種研修等の情報提供は行っているが、場所や時間が限られているため参加も困難である。

総合型地域スポーツクラブは、当町のスポーツ振興や普及に大きな役割を担っており、クラブの独自事業や健康づくり推進事業、指導者養成事業等を計画的に事業展開している。

【課題】

<社会教育活動>

- (1) 団体のリーダーの発掘及び育成が必要である。
- (2) 自主・自立を目指した積極的な指導及び助言による活動支援が必要である。

<芸術・文化活動>

- (1) 既存の団体に対する支援の継続と新規団体の設立を視野にいれた対応が必要である。
- (2) 読み聞かせ活動の回数が増えたことにより会員の負担が増えてきたため、増員又は新規団体の結成が必要である。

<社会体育活動>

- (1) 各団体と連携しながらスポーツ指導者の発掘及び養成を図る必要がある。
- (2) 総合型地域スポーツクラブが安定した事業運営、スポーツ振興を図るため、連携及び協力、活動支援が必要である。
- (3) 団体の自主・自立を支援していくための方策を検討する必要がある。

【推進項目】

<社会教育活動>

- ・団体が主催する事業への支援、指導及び助言を通して人材育成を図る。
- ・ライフステージに応じた学習内容や手法による学習の推進を図る。
- ・自主・自立を目指した団体への継続的な支援を図る。

<芸術・文化活動>

- ・芸術・文化活動に関わる団体が新規設立できるよう支援する。
- ・読み聞かせ活動に対し、やりがいを感じられるよう支援し、研修機会を充実するなどして活動の定着を図る。

<社会体育活動>

- ・スポーツ指導者の発掘及び養成を図り、活躍の場を整備する。
- ・団体の自主的活動及び自立していくための支援を行う。
- ・地域に根づく総合型地域スポーツクラブの活動を支援する。

【アクションプログラム】

分野	推進項目	事業名	対象	関係機関
社会教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・団体が主催する事業への支援、指導及び助言を通して人材育成を図る。 ・ライフステージに応じた学習内容や手法による学習の推進を図る。 ・自主・自立を目指した団体への継続的な支援を図る。 	子育て支援関連事業	青年～高齢者	子育て支援センター 保健福祉課
		ジュニアリーダーコース 道東派遣事業	中学生 高校生	北海道教育委員会 中学校 羅臼高等学校
		社会教育関係団体等の支援	社会教育関係団体	女性団体連絡協議会 子ども会育成協議会 PTA 連合会 文化協会 知床いぶき樽保存会 体育協会 スポーツ少年団 羅臼スポーツクラブらいず
芸術・文化活動	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術・文化活動に関わる団体が新規設立できるよう支援する。 ・読み聞かせ活動に対し、やりがいを感じられるよう支援し、研修機会を充実するなどして活動の定着を図る。 	公民館利用団体の支援	公民館利用団体	文化協会
		読み聞かせサークルの支援	読み聞かせサークル	
社会体育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ指導者の発掘及び養成を図り、活躍の場を整備する。 ・団体の自主的活動及び自立していくための支援を行う。 ・地域に根づく総合型地域スポーツクラブの活動を支援する。 	体育協会加盟団体の育成及び支援	体育協会加盟団体	体育協会
		スポーツ少年団加盟団体の育成及び支援	スポーツ少年団加盟団体	スポーツ少年団本部
		総合型地域スポーツクラブとの連携及び支援	羅臼スポーツクラブらいず	体育協会 スポーツ少年団本部
		地域スポーツ指導者の発掘及び養成	小学生～高齢者	体育協会 スポーツ少年団本部 羅臼スポーツクラブらいず

事業推進の年度別指標				
	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度
	各種事業を通じて子育て支援に関わる人材の発掘と養成	検証・継続	検証・継続	検証・継続
	参加奨励及び参加協力	検証・継続	検証・継続	検証・継続
	活動補助金確保 自主・自立の活動に対する支援と協力 団体が主催する事業の連携	検証・継続	検証・継続 (補助金検討委員会における検証年度)	検証・継続
	各種団体の新規設立 団体への継続的支援	検証・継続	検証・継続	検証・継続
	研修機会の提供と充実 サークルの新規設立支援 団体育成のためのミニ講座の開催			検証・継続
	自主的で活発な活動の促進	検証・継続	検証・継続	検証・継続
	少年団活動の支援 子どもの体力向上事業の推進 各種指導者養成事業・リーダー研修会の開催及び参加奨励 活動実態の調査・研究	検証・継続	検証・継続	検証・継続
	クラブ主催事業との連携及び支援 永続的な活動・運営のための支援	検証・継続	検証・継続	検証・継続
※各領域（少年教育・青年教育・成人教育）参照				

資 料 編

羅臼町第7次社会教育中期計画策定委員会名簿

【策定委員会】

	役 職	氏 名	所 属
1	策定委員長	大 口 茂	社教委員兼公運審
2	策定副委員長	横 岩 信 子	〃
3	社会教育活動部会 部長	平 原 英 雄	〃
4		濱 屋 修 司	〃
5		野 祥 子	〃
6	芸術文化活動部会 副部長	河 原 宣 孝	〃
7		稲 村 和 典	〃
8		渡 辺 祐 司	〃
9		田 中 良	〃
10	芸術文化活動部会 部長	葛 西 良 浩	〃
11	社会体育活動部会 部長	小 梨 貴 子	スポーツ推進委員
12	社会体育活動部会 副部長	桜 井 憲 二	〃
13		野 喬 暢	〃
14	社会教育活動部会 副部長	山 中 伸 行	文化財保護調査委員
15		松 田 弘 子	〃

【第一部会／社会教育活動部会】

役 職	氏 名	所 属	
部会長	平 原 英 雄	社教委員兼公運審	委 員
副部会長	山 中 伸 行	文化財保護調査委員	”
部 員	濱 屋 修 司	社教委員兼公運審	副委員長
”	渡 辺 祐 司	”	委 員
”	松 田 弘 子	文化財保護調査委員	”

【第二部会／芸術・文化活動部会】

役 職	氏 名	所 属	
部会長	葛 西 良 浩	社教委員兼公運審	委 員
副部会長	河 原 宣 孝	”	”
部 員	横 岩 信 子	”	委 員 (策定委員会副委員長)
”	田 中 良	”	委 員
”	野 祥 子	”	”

【第三部会／社会体育活動部会】

役 職	氏 名	所 属	
部会長	小 梨 貴 子	スポーツ推進委員	委 員
副部会長	桜 井 憲 二	〃	〃
部 員	大 口 茂	社教委員兼公運審	委 員 (策定委員会委員長)
〃	稲 村 和 典	〃	委 員
〃	野 喬 暢	スポーツ推進委員	〃

【事 務 局】

役 職	氏 名	所 属	
事務局長	石 田 順 一	羅臼町教育委員会 社会教育課	社会教育課長 兼公民館長
事務局次長	菊 地 理 恵 子	羅臼町教育委員会 公民館	図書係長（司書）
事務局員	米 屋 猛	羅臼町教育委員会 社会教育課	社会教育係長
〃	鹿 又 貴 美 子	〃	栄養士
〃	中 嶋 仁 彦	〃	主任
〃	今 泉 亮 人	〃	主任（社会教育主事）
〃	板 倉 一 徳	羅臼町教育委員会 公民館	業務係長
〃	天 方 博 章	羅臼町教育委員会 郷土資料館	学芸員

【策定スケジュール】

年 月 日	会 議 名
平成 27 年 5 月 20 日	第 1 回社会教育委員の会議 ・諮問及び中期計画策定委員選考依頼
6 月 9 日	第 1 回第 7 次社会教育中期計画策定委員会 ・委員委嘱、策定スケジュール及び専門部会について
8 月 27 日	社会教育委員・中期計画策定委員研修「斜里町立図書館視察研修会」 ・館内設備、斜里町図書活動の取り組み等概要説明（8 名参加）
9 月 29 日	第 2 回第 7 次社会教育中期計画策定委員会 ・全体会：現状把握 ～羅臼町における乳幼児(家庭)、少年期、青少年期の現状と課題～ ・専門部会：第 1 回社会教育／第 1 回芸術文化 【内容】乳幼児(家庭)、少年期、青少年期の現状と課題の確認
10 月 26 日	第 3 回第 7 次社会教育中期計画策定委員会 ・全体会：現状把握 ～羅臼町における成人期、高齢者期、基盤整備、団体育成の現状と課題～ ・専門部会：第 2 回社会教育／第 2 回芸術文化／第 1 回社会体育 【内容】成人期、高齢者期、基盤整備、団体育成の現状と課題の確認
11 月 18 日	第 2 回社会教育委員の会議 ・第 7 次社会教育中期計画策定の経過説明
12 月 10 日	第 4 回第 7 次社会教育中期計画策定委員会 ・全体会：今後のスケジュール確認 ・専門部会：第 3 回社会教育／第 3 回芸術文化／第 2 回社会体育 【内容】各領域別の「現状」「課題」「推進項目」の整理
12 月 17 日	第 5 回第 7 次社会教育中期計画策定委員会 ・全体会：中期計画の全体構成について ・専門部会：第 4 回社会教育／第 4 回芸術文化／第 3 回社会体育 【内容】4 カ年のアクションプログラムの策定
12 月 21 日	第 3 回社会教育委員の会議 ※流会 ・答申（案）の概要説明 ⇒書面にて意見聴取とした
平成 28 年 1 月 21 日	第 6 回第 7 次社会教育中期計画策定委員会 全体会：現状と課題及び領域別推進項目の整理、答申（案）の調整
1 月 26 日	第 3 回社会教育委員の会議 ・答申（案）の最終調整
	教育委員会へ答申

羅臼町第7次社会教育中期計画
2016年度～2019年度
(平成28年度～平成31年度)

2016年2月発行

発行：羅臼町教育委員会
目梨郡羅臼町栄町102番地
TEL 0153-87-2004
FAX 0153-87-2256

